



赤麻小だより

第39号

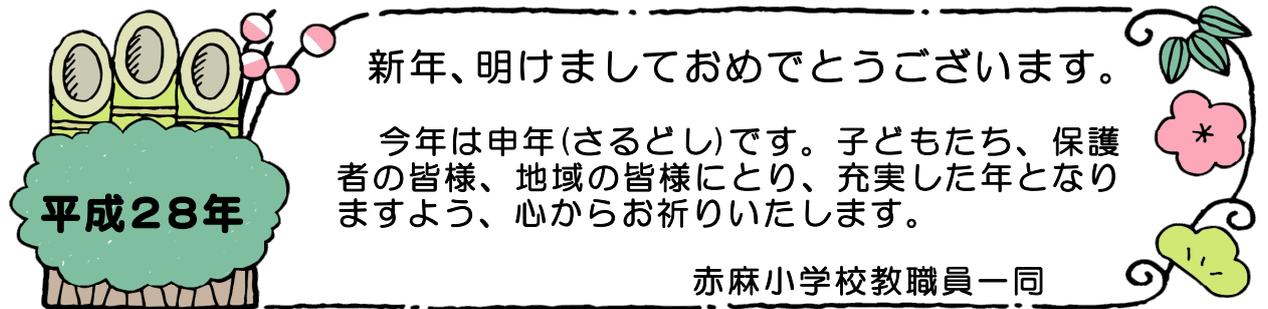
平成28年1月8日

発行所：栃木市立赤麻小学校校長室

13日間の冬休みが終わり、平成28年がスタートいたしました。いよいよ学年のまとめとなる3学期が始まります。本日、元気いっぱいのあかまっ子が登校してきました。子どもたち全員が事故や事件にも遭わず、3学期の始業式を迎えられたことを何よりもうれしく思います。冬休み期間中も、保護者、自治会、育成会、ボランティア等の皆様が適切なご指導や温かい見守りをしてくださったおかげと、心より厚く感謝申し上げます。

各教室で子どもたちは、冬休みの楽しい思い出や出来事、新しい年の希望・目標などを、友達と盛んに語り合っていました。

我々教職員も3学期の準備を進めてまいりました。それぞれの学年のまとめの学期となります。子どもたちが夢をもって進学・進級できるよう、本校の教育目標の具現化を目指し、教職員一同精一杯努力してまいりますので、ご支援のほどよろしくお願いいたします。



新年、明けましておめでとうございます。

今年は申年(さるとし)です。子どもたち、保護者の皆様、地域の皆様にとり、充実した年となりますよう、心からお祈りいたします。

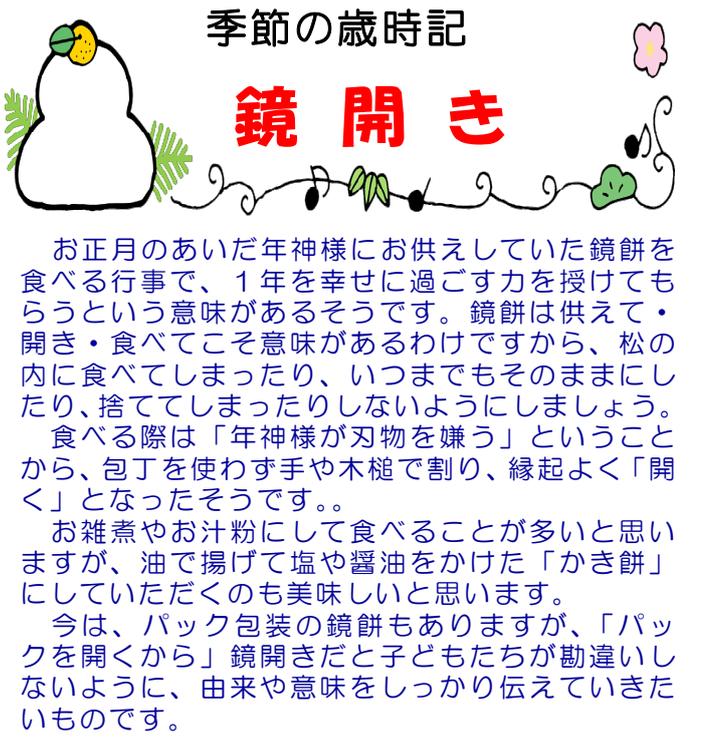
赤麻小学校教職員一同



1月睦月(むつき)は「仲睦まじく過ごす月」とか。お正月はご家族で仲睦まじく過ごされたことと思います。1月も6日に小寒、7日は七草粥、11日鏡開きと成人の日と過ぎていくうちに、一年で最も寒い「寒」の時期に入っています。

今年のお正月はとても穏やかで暖かい日が続きました。また、インフルエンザの流行もありませんでしたが、学校は今年も流行に備えて、子どもたちに手洗い・うがい・体の休養と食事について呼びかけてまいります。赤麻小名物の西風旋風が少ない昨年末でしたが、寒さはこれからが本番。ご家庭でも、子どもたちの健康管理のご協力をお願いいたします。

寒さに負けず赤麻小の冬を乗り越えたいと思っております。



季節の歳時記

鏡開き

お正月のあいだ年神様にお供えしていた鏡餅を食べる行事で、1年を幸せに過ごす力を授けてもらうという意味があるそうです。鏡餅は供えて・開き・食べてこそ意味があるわけですから、松の内に食べてしまったり、いつまでもそのままにしたり、捨ててしまったりしないようにしましょう。

食べる際は「年神様が刃物を嫌う」ということから、包丁を使わず手や木槌で割り、縁起よく「開く」となったそうです。

お雑煮やお汁粉にして食べることが多いと思いますが、油で揚げて塩や醤油をかけた「かき餅」にさせていただくのも美味しいと思います。

今は、パック包装の鏡餅もありますが、「パックを開くから」鏡開きだと子どもたちが勘違いしないように、由来や意味をしっかりと伝えていきたいものです。



* 成長の1年にしていきましょう！ *



我が家では、毎年家族で初詣に出かけ、その年にまつわるお話を宮司の方から聴いてきます。そして一年の心構えを新たにもつことにしています。今年もその話をここで紹介したいと思います。



今年は申年です。栃木県で猿…という、昨年復活した日光猿軍団や、日光東照宮の三猿（見ざる聞かざる言わざる）が思い浮かぶ人も少なくないかもしれません。もともと、この猿軍団はさかのぼれば「猿回し」が始まりだったそうです。猿回しとは文字通り、猿を回す芸のことですが、歴史を辿ると遠く中国の唐の時代に始まり、日本でも鎌倉時代に書かれた歴史書『吾妻鏡』に猿回しについての記録が書かれています。江戸時代は正月、五月、九月に武家屋敷などの厩（うまや）の前で猿を回したとされています。これは、馬一午が方角で言うと南、暦の上では火の気をもっとも強くもつとされていたからで、強い火の気をもつ馬を水の気をもつ申＝猿で抑えるという意味合いがあったそうです。火事と喧嘩は江戸の花…といわれるほど、江戸の町は火事の多い場所でした。その江戸には武家屋敷も多く、当然武家屋敷には武士の乗る馬、厩も多くありました。要は火事の元となる火の気がそこらじゅうにあったわけです。そこで、火の気の始まる正月、火の気が盛んになる五月、火の気が終わる九月に、その厩の前で猿を回し、いわゆる厄除けをしたというわけです。三猿のいる日光東照宮の厩にも多くの猿の彫刻があります。このように、猿はその音とかけて「去る」、災いが「去る」とも信じられてきました。申年には赤いものを身に付けると良いと言われていますが、赤は魔除けの色ということで、これもまた魔＝災いが去るよという信仰の現れとされています。

さて、干支のほうを見てみましょう。暦としての今年は壬（みずのえ）申の年。申の年は「成長、成熟の年」と言われているそうです。また、壬は「あきらか」という意味をもっており、この年は物事がはっきりと見えてくる、あるいは今まで見えなかったものに気付く年とされています。つまり、壬申という年はこれまでやってきたことが成熟し、その結果が出てくる年といえるでしょう。その結果をはっきりと見据え、次なる成長へとつなげていく年でもあります。どんな結果もしっかりと見つめ、直すべきところは直し、正すべきところは正していき、次なる成長につなぐ一年としていきたいものです。



以上が新年に当たっての宮司の方の話(概略ですが)です。

昨年は終戦から70年の節目の年でしたが、日本国内を見ても世界を見ても、戦争や紛争にまつわる様々なニュースや事件を耳にすることが多い年でした。また過去にないような自然災害を経験した年でもありました。今年はこの申年にあやかって、こうした多くの災いが去り、心が痛むような事件やニュースを「見ず」に、「聞かず」に、そして「言わず」にすむような、穏やかな年であるように祈らずにはられません。

新年の誓いを立てた赤麻小の子どもたちにとって、困難に負けず立ち向かい、自分自身を成長させるための一年になるよう願っております。そして、保護者の皆様、地域の皆様、また赤麻小の教職員にとっても、大きな成長と成熟の1年であるように心から願っています。



